



普段着の
農村に入り、

日帰り
農村交流体験

『ほっとステイ』さなだ
HotStay

真田氏発祥の郷

心やさしい
村人と語らい
自然の恵みに
感謝する。





「ほっとステイ」の成果・効果(先生方の声・生徒さんの声)

先月は、大変お世話になり誠にありがとうございました。

今日は生徒達も元気に登校し、自然教室を振り返って作文を書きました。その中で村の人達に優しく接してもらいとても楽しく過ごすことができたを書いていた子もいれば、おいしい空気を吸いながら自然を満喫できたと書いている子もいました。

生徒達一人ひとりが、村での体験で何かを感じ、得て帰ってきたようです。私共職員も、生徒達のそんな姿を見て改めて自然の偉大さ、そして人の心の大切さを感じました。



中学校 B先生

「お年寄りにもらった楽しい時間」

人付き合いが苦手な私にとって、農村体験の六時間は、たいくつつまらない、ただただ長く感じるはずのものだった。私には年配の人たちへの偏見があった。世代が違うのだから話が合わないし、見るもの感じるものすべてが私たちとは違っているはずだと。

体験場所に向かうバスの中では、「このままここにいられたらいいのに。」と思っていた。しかし、受入家庭の方々とはとても明るく話をしてくれた。農家のお年寄りは若々しく、私たちとは違う意味で輝いていた。話は面白くて、いくら聞いてもあきないような内容だった。だから、農村体験の時間は本当に早く過ぎていった。

でも、相手が若々しいから楽しい時間を過ごせたのではない。

今、思い返せば、農家の年配の方たちは、本当に私たちが気遣ってくれた。実際には、出かける前からその差はあった。

自分たちから出さなければならない自己紹介カードは、あちらが先に送ってくれた。農村体験のイメージ作りのためにと考えてくれたのだと思う。話すこと一つをとっても、できるだけ身近な話題から始めてくれた。お互いがよく理解できるようにと、質問をしたり、相づちを打ったりもしてくれた。そのバランスもよく、さすが年配の方は違うなと思った。私が一番すごいと感じたのは、そういう気遣いをしていることを、こちらに悟られないようにしていたことだ。それも六時間。私たちには絶対にできない。尊敬に値すると思った。

私たちは相手を気遣うどころか、始めは少し距離を置いていた気がする。それがいつの間にかなくなっていた。農村体験での楽しい時間は、私たちがもらったものだ。自分が小さく見えた、つまらない偏見など吹き飛んでしまった。行きのバスの中で先生が、「受け入れ家庭の人と仲よくなりすぎて、帰りたくないなんて言わないでね。」と言っていた。そんなことあるわけがないと思っていたが、帰りのバスに乗りこむときは、本当に名残惜しい気持ちになった。

農村体験で、私は年配の人の気遣いに気づいた。そして、こんなに素晴らしい人たちと貴重な時間を過ごすことができたことを幸運に思った。これからは、私の方から年配の人たちに近づき、もっといろいろなことを教えてもらおうと思っている。

(女子生徒) Kさん



東京都 区立F中学校 生徒アンケートより

「ほっとステイ」を体験して何か変わったことはありますか。(精神的に学んだことなど)

- ・自然に触れられ、自然破壊はダメだと思った。
- ・農家の人達が汗水流して作った野菜なので、感謝して好き嫌いをなく、何でも食べたい。
- ・自然に作られた食べ物の美味しさがわかった。
- ・農作業の大変さがよくわかった。
- ・他人との接し方、友達との接し方を学んだ。
- ・戦争の話をしてもらって戦争の悲惨さがよくわかった。
- ・東京と違い自然がたくさんあり、空気がおいしかった。
- ・自然の豊かさを感じ、一歩成長した。
- ・協力することを学んだ。
- ・集団生活が身についた。(礼儀正しくできた。)



「ほっとステイ」要綱(抄)

体験場所	真田の郷(旧真田町のエリア)とその周辺	受け入れ家庭1軒当たりの受け入れ人数	1グループ(1班) 5人か6人
標準的な体験所要時間	9:30~15:30 (6時間 昼食の交流時間も含む)	体験費用(税込み)	お一人様 3,150円(H19年1月現在)





『今なぜ、「ほっとステイ」なの?』

真田 幸村

今日の子供達の問題行動は、豊かな現代社会を苦勞して築き上げた人達との本当の意味でのふれあいが行われて来なかった事が大きな原因だと考えます。

日帰り農村体験「ほっとステイ」は、日本農業の現状を学び、村人との交流の中で人間としてのやさしい心を育み、人と自然、人と食(農)、人と人との関係の大切さを再確認し学ぶ生活体験です。



「ほっとステイ」の目指すもの

日本農業の現状学習

国際貿易自由化の荒波にさらされ、厳しさを増す日本の農業の現状・・・



高齢化と後継者不足、遊休農地の増加と農地・農村の荒廃。「ほっとステイ」は、日帰り農村体験を通して日本の農村の現状を学び、農村の大切さを再確認する体験です。
「日本農業の現状」学習は必修課題です。農業(食糧)を切り口として、日本という国の姿を学びます。

ありのままの農村の体感

「ほっとステイ」は、商業化された農作業体験ではありません。普段着の農村の体験です。農村の日常生活を少人数で体験し、農村の過去・現在・未来を学びます。農村の「ありのまま」の姿を体感できます。

自然相手の農業の苦勞と楽しさを体験。



人間性回復の場・農村

活性化された信州の農村のパワーと魅力は、現代人の人間性回復の場を提供します。21世紀、人間性を回復した「和」の心をもった日本人(子供達)が国際化の中で日本人としてしっかりと歩むことができます。



村人の知恵の伝承と「やさしい」心の育成

人間が生きていく為の根本＝「食」を生産する農村の村人が、貴重な経験を生の声で語り伝えます。生徒達は彼らなりに体感・理解し、心豊かになり、人としての「思いやり」「やさしさ」を実感し帰っていきます。



「生きる力」と「食と農と命の大切さ」「生きる知恵」(農村文化)の祖父母世代から孫世代への伝承。

コミュニケーション能力の養成

見ず知らずの土地に来て、初対面の村人と交流する中で、生徒達は人と人との接し方やコミュニケーション能力を養い、人と人のかかわりの大切さを学びます。

「入村心得26ヶ条」
「交流・体験の基本」
社会の一般常識



真田幸隆・昌幸・幸村発祥の地。戦国回マンに触れてみませんか。





「ほっとステイ」との出会い

収穫体験などの農作業体験と「ほっとステイ」の日帰り農村体験とどこが違うのか？豊富な資料と実績でご説明します。検討のための真田の郷への下見は大歓迎です。



受け入れ家庭の体制

受け入れ家庭の方々にも、「ほっとステイ」の趣旨をご説明し、受け入れ体制は万全です。

受け入れ家庭のプロフィール表作成の為、訪問・聴き取り調査をさせていただきますが、お話しをお聴きするたびに感心させられます。皆さんの生き方、含蓄ある「ことば」、経験に裏打ちされた考え方に本当に感動させられます。



日帰り農村交流体験「ほっとステイ」で学んで欲しいこと(総合学習)

「ほっとステイ」は、「生きる力を育む」総合学習に最適な場を提供します。訪問者(生徒・学生)が「テーマ」を自ら選び、自ら学び、自ら体験・検証し、自ら発表する場と機会を提供します。

教わろう、話そう。

人生の大先輩、おじさん、おばさんに！

- 戦争と平和、戦後の暮らし
- 野菜栽培管理作業
- 自然の中での遊び
- 農村で生きる楽しさ
- 方言の使い方と意味
- 若いころの仕事、楽しみ
- 生活の知恵、礼儀作法
- 収穫の喜びと自慢話
- 農作業の四季と栽培の秘訣
- 自給自足、自給率と豊かさ
- 農村・農家で大切にしているもの

①交流・体験の基本

②社会の一般常識

③農村の現状と課題

④「食」を考える (人や食や環境を思いやる心)

見よう、調べよう。

自ら学び、自ら体験！

- 日本農業の現状
- 自分にとって農業とは？
- 昔の暮らしと今の暮らし
- 優しい自然と厳しい自然
- 高齢化の現状とこれから
- 環境、福祉、医療、交通、流通
- 自然の法則と不自然の違い
- 慣行農法とこだわり農法
- 村の歴史、伝統行事、集落の自治
- 動植物の生態(鳥、魚、牛、豚、昆虫、草...)
- 生物の環境指標と在来・帰化種
- 農村の第2、3次産業
- 農村にもサラリーマンはいる？
- 用水・ため池の役割と歴史



「ほっとステイ」の学習フィールド

■生活体験(日常の暮らし)

受け入れ家庭の村人との初対面の挨拶から始まり、少人数での濃密な交流が体験できます。

「お茶のみ」も、日常生活での潤いの時間です。家庭での農作業の準備・段取りや道具の手入れ、収穫物の管理、保存食作りも大事な日常の暮らしの一部です。

■自然体験(周辺散策)

田畑や山川に出て、農業や自然の本当の姿に接する中で、心躍る発見をして、「自然の大切さ」を実感します。日本の緑豊かな農村風景は、日本人にとって「水」や「空気」のような基礎的な存在・環境です。

■農業体験(日々の農作業)

少人数で受け入れ家庭に入り、その日一日を共に過ごし・働く中で、村人との心のふれあいが実現します。子供達は、村人の苦労話や貴重な人生経験を聞き、農村の現実を直接体感します。子供達は意のままにならない自然相手の農業の苦労を知り、自然への畏敬の念や人と人との助け合い・人を思いやる心を育みます。

村人との心と心の交流で、「生きる力」を学びます。





「ほっとステイ」交流体験の流れと評価システム

STEP1 事前学習と交流

子供達は事前学習として、日本の農業の現状を学習します（必修）。

受け入れ家庭のプロフィールや各提供可能サービス情報が事前提供され、班毎に受け入れ家庭が事前に決まります。

また、約250に分類した学習テーマ表も事前提供いたしますので、学習テーマ選択に活用していただけます。

一方、班員全員の自己紹介や学習したいテーマが事前に受け入れ家庭に知らされます。これにより、初対面でも最初から親密な交流が可能となります。



STEP2 入村当日の実践学習と交流

「入村心得26ヶ条」は事前にしっかり身につけて頂きます。

人と人との接し方は「礼に始まり、礼に終わる」が基本です。心のふれあいできてこそ本当の交流体験が実現します。

また、選択したテーマの事前学習が村人との濃密な交流を実現します。

村人との交流の中での実践学習が、自ら学び自ら考える力を育みます。

自然相手の農業の苦勞と楽しさを学び、村人のやさしい心と豊かな自然に感動します。



STEP4 評価システム

受け入れ家庭の方には、朝、受け入れ時に「アンケート表」（評価表）が手渡されます。それらを集計・換算し、100点満点でどのくらいの得点を得たかを求め評価します

評価、集計結果は、子供たちの「生きる力度」判定として、体験実施校にご連絡（送付）いたします。皆様の学校の「外部評価」として、ご活用くだされば幸いです。

また当該年度の全実施校の評価結果を学校名を伏せてご連絡（送付）いたします。学校間での自校の相対評価がわかります。

また、複数年の継続実施の場合、自校内での学年相対評価及び継続的な評価・傾向を知ることができます。

評価の項目

1. 会話力
2. 表現力
3. 行動力
4. 判断力
5. 積極性
6. 協調性
7. 解決力
8. 勤勉性
9. 忘れ物
10. 学習力

STEP3 事後学習と交流

子供達は班毎に様々な体験や学習をします。その貴重な体験を整理・発表する機会を設けることは、子供達の学習内容を深め定着させます。

体験レポートなどを是非お世話になった受け入れ家庭などに送って差し上げて下さい。学校に戻ってからの質問も大歓迎です。また、村人との心の交流は自然な心の表れとしてお礼の手紙などとなって村人に届きます。



標準的なタイムスケジュール

- 9:00…………… 真田の郷駐車場着（本部設営）
- 9:15…………… 駐車場から受け入れ家庭へ出発
- 9:30～10:00… 顔合わせのお茶の時間＝今日の予定
- 10:00～12:00… 受入家庭にて農村体験（普段通りの暮らし）
- 12:00～13:00… お昼ご飯（昼食弁当は宿泊施設で用意します）
- 13:00～15:00… 受入家庭にて農村体験（普段通りの暮らし）
- 15:00～15:30… ふりかえりのお茶の時間＝今日のまとめ
- 15:30…………… 受け入れ家庭から駐車場へ集結
- 16:00…………… 宿泊施設（自校）へ帰路（本部解散）



《入村心得》26ヶ条(抄)

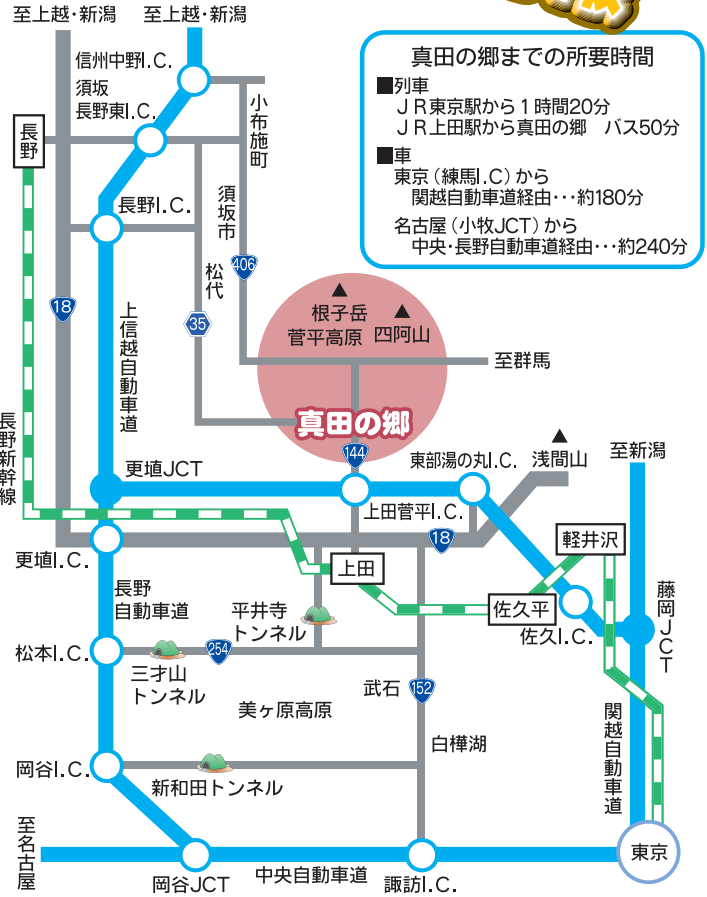
「ほっとステイ」では一般的な常識として、下記事項については皆様方に『当たり前前に出来る人』として交流しております。

- 1条 朝のあいさつ、大きな声で『おはようございます。よろしくお願ひします』
- 3条 あいさつ・会話は物事の始まりです。相手の顔をちゃんと見て話しをする。
- 5条 わからないことは 素直に、気持ちよく 聞く。
- 11条 食べ物には 食べられる物だけに箸を付ける。迷い箸、指し箸はいけない。
- 13条 危険行為の注意を受けたらすぐ止める。止めない場合はレッドカードです。
- 26条 後片づけがキチンと出来て すべてが終わる。

菅平高原で大自然を体感。白銀の世界で雪あそび・スキーも楽しめめます。



真田の郷へのアクセスと周辺情報



幸隆・昌幸・幸村、真田三代を育んだ戦国ロマンの郷



百名山の四阿山、花の百名山 根子岳&スポーツハイランド

真田の郷のお土産は、癒されたあなたの「こころ」です。

協賛宿泊施設

友好協力団体

自然体験・森林体験・環境学習

NPO法人フォレスト工房もくり

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽9022-2

電話 0268-61-5488 FAX 0268-61-5489

URL <http://mokuri.cool.ne.jp> E-mail mokuri@e-mail.ne.jp

信州しあわせ村真田

〒386-2203 長野県上田市真田町傍陽9022-2

フォレスト工房もくり内

電話 0268-61-5488 FAX 0268-61-5489

<http://siawasemura.jp> E-mail: sanada@siawasemura.jp

「信州しあわせ村真田」・「ほっとステイ」さなだ 立ち上げの経緯

信州せいしゅん村(武石)の「ほっとステイ」事業は、農山村を活性化する「村興し」のすぐれたモデルです。真田の郷の農業・林業、農山村を何とかしたいという熱い思いの延長線上に、ここ真田の郷でも農山村の重要性を再認識した有志が集まり、実地見学・数度の勉強会を経て2005年暮れに「信州しあわせ村真田」を結成し、ありのままの農山村を活用した「ほっとステイ」さなだの事業を立ち上げることとなりました。